

母校内科学Ⅲ教室教授就任の ご挨拶とこれからの医師会

内科学Ⅲ教室 教授

星賀 正明



皆様

2021年4月に母校内科学Ⅲ教室教授を拝命致しました。新生大阪医科薬科大学の門出と重なり、大変光栄に存じます。母校の循環器内科は、1内科と3内科が両立するほぼ50年の歴史を経て、2012年に1つの教室になりました。今、この2つの教室が育んだそれぞれの文化が多様性をもちながら融合し、新たな歴史を刻んでいます。

多様性を尊重する姿勢は、複雑化した現在の医療を進めていく上で何よりも大切と考えています。循環器医療においては、今や冠動脈疾患の患者数を心不全罹患者数が凌駕しています。心不全患者さんは、高齢で併存疾患も多く、多診療科・多職種によるチーム医療が必須です。また、従来からの生命予後改善をめざす目標に加え、患者さんそれぞれの価値観の多様性を尊重したpatient-centered outcomeの改善をめざす様になっています。多様な価値観に対応するためには、医療のみならず介護も含めた多様性に富んだチームが必要になります。

多様性を尊重するのは、患者さんに、だけではありません。医師自身の価値観も大きく変化し、多様化しています。大学に在籍していると、学部学生、初期研修医、後期研修医(専門医制度における専攻医)と触れ合う機会が得られます。これは大変貴重なことで、本当に個性が豊かです。最初は理解が及ばぬところがあったのですが、2017年「モチベーション革命」尾原和啓氏著が解き明かしてくれました。以前と異なり、若い人たちは生まれた時から「ないもの」がなく、

何かが欲しいと「乾けない」、したがって価値観が全く異なるという指摘です。医師のこのような変化・多様性を考えるとき、医師会の果たす役割は重要になります。私は2018年6月から大阪府医師会理事を拝命し、現在2期目を務めています。勤務医と学術を主に担当し、日本医師会の委員会に参加しております。全国の医師会員の過半数は勤務医です。特に大阪府医師会の勤務医部会は、全国で1、2位の歴史があります。勤務医にとっての医師会は、地域医療連携や医療事故調査制度を進めてきました。Covid-19対応で、連携が強化された様に思います。これから、医師の働き方改革、新専門医制度という勤務医、特に若手医師に直結する課題に正面から取り組んでいかねばなりません。その際に、若手医師の多様な価値観に対応するためには、大学をはじめとする医師会から声をあげ、ボトムアップで中央に伝える必要があります。

どうぞ、明日の医療の担い手である若手医師の意見を反映できる様に、宜しく願い申し上げます。

参考文献：

「モチベーション革命」尾原和啓著
「多様性の科学 (Rebel Ideas)」マシュー・サイド著